

# 令和6年度学校評価シート(後期)

R7.2.17

学校目標:いのちと人権を大切にし、ふるさとを愛し　こころ豊かで夢に挑戦する　自立した生徒の育成

評価計画					自己評価							新改善計画	学校関係者評価
観点	項目	具体的方策	評価指標	目標値 (昨年度)	前期評価	達成値 (今年度)	評価アンケート			昨年 評価	評価		コメント
							教職員	生徒	保護者				
確かな学力の定着	目標を持った学校生活	夢や目標の意識化	目標を持って取り組んだ生徒の指数昨年度以上	2.5	2.2	2.2	2.2	2.3	2.1	A	B	①多可町10ポイントを軸とした授業スタイルの構築。②実効的な小中連携体制の構築と実践。③「家庭学習の手引き」の有効活用ならびに学習相談日「どんどん努力タイム」の実施。④計画的な研究授業の実施。⑤有効な課題の提示と反復練習による基礎学力の定着。⑥学力向上プランの作成実行。⑦継続的なスタディサブリの活用と個別最適化学習の促進⑧読書環境の整備⑨目標を持つ生徒を育てるキャリア教育の充実	夢や目標の数値について、生徒たちは昨年と変わらないが達成度は下がっている。生徒たちが現実的すぎるのか、それともあまり他人に語らないのかどちらだろうか。家庭学習の習慣化と楽しく分かりやすい授業の項目について、三者の評価の差がある事については昨年度も話し合ったが、このずれをどう考えているのかを今年も職員間で話し合い、共有していただきたい。さらに、今の時代の宿題について、どのぐらいの量が必要なのか見直す時期ではないか。自主学習等についても、有用な個別最学習になっているのかどうかを、保護者とスタサブなどの取り組み状況や結果を共有できるようにして、改善していくべきではないか。
	読書の推奨	読書記録による表彰	年間読書量1 2冊以上の生徒数昨年度以上	24		24				B	A		
	家庭学習の習慣化	「家庭学習の手引き」活用と啓発	家庭学習をしている生徒の指数の昨年度以上	1.9	2.0	2.0	1.7	2.2	2.0	B	B		
	楽しく分かりやすい授業	計画的な授業公開による授業改善	授業が楽しく分かりやすいと感じる生徒の指数昨年度以上	2.2	2.1	2.1	2.2	2.1	1.9	A	B		
	学力の向上	学力向上プランを活かした授業改善	調査結果を生かした授業改善を評価する教員の指数一昨年度以上	2.3	1.9	2.1	2.1			A	B		
豊かなこころ	道徳教育の充実	年1度の授業公開と学年団の授業	道徳指導の工夫改善をした教員の指数昨年度以上	2.2	2.1	2.2	2.3	2.4	1.9	B	B	①道徳の時間数確保と学年団による道徳の指導。道徳授業の公開と研究授業の実施と研修。②PDCAによる学校行事の工夫改善と授業時数確保を目的とした行事の精選。③キャリア教育の年間計画や人権教育の全体計画の実行。④委員会活動としてのボランティア活動。⑤生徒会による各種キャンペーンの実施ならびに表彰。⑥学年を超えた縦割り掃除によるリーダー育成、掃除分担区の見直しと黙々掃除の実施及び清掃指導場所の明確化。⑦手伝いの奨励や個々の生活スケジュール計画など、家庭での生活状況の啓発。⑧定期的な生活状況調査の実施。⑨中ボラの促進⑩3分前行動の徹底	本年度は生徒会の活動が活発になり、自分たちで行事を生み出したり、体育祭など恒例行事も工夫改善し自己評価にしていることが生徒自身の指数からうかがえる。昨年度に引き続き、ボランティア活動について、特に保護者の評価が低いことが気になる。コロナ以降、ボランティア参加は難しくなっており、ボランティアそのもののあり方、とらえ方を考え直すべきだろう。保護者の評価が低いのは保護者が中学生時代に行われた行事をボランティアとして認識しているのかもしれない。ペットボトルキャップ集めもボランティア扱いでいいのでは。キャップ集めももっと全体に周知されていたら、保護者や地域の協力を得て評価につながるだろう。また、昨年度につづき生徒会厚生部で体育祭で募金を行い石川県へ義援金を送ったり、文化祭ではポリオワクチン約1,275回分をUNICEFに送ったりという活動もしていると聞いた。挨拶も頑張っているが、やはり前回は伝えた通り、生徒からの発信も必要だと考える。
	ボランティア活動の充実	ボランティア活動の場の設定と記録の保存	ボランティア活動に取り組む生徒の指数昨年度以上	1.7	1.3	1.4	2.0	1.3	1.0	B	C		
	規範意識の育成	道徳の授業を重視した学級経営	きまりを守る生徒の指数2.5以上	2.6	2.4	2.4	2.3	2.6	2.4	A	B		
	挨拶の習慣化	学校だより等による賞賛や生活三訓の掲示等による意識付け	学校家庭地域で挨拶をする生徒の指数2.5以上	2.5	2.5	2.4	2.5	2.6	2.2	B	B		
	時間の遵守	生活三訓の掲示等による意識付けと生徒会生活部との連携	学校で時間を守る生徒の指数2.5以上	2.3	2.2	2.3	2.6	2.5	1.7	B	B		
	美化意識の高揚	生活三訓の掲示等による意識付けと生徒会美化部との連携	清掃を一生懸命する生徒の指数昨年度以上	2.3	2.2	2.2	2.3	2.5	1.9	B	B		
	学校行事の工夫改善	行事評価による工夫改善	学校行事を工夫改善した教員の指数昨年度以上	2.4	2.4	2.4	2.2	2.8	2.3	A	A		
健やかな体	S N S運動の取組	生徒会による新ルール周知と家庭や町教委と連携した取組	生徒のS N S運動取組の指数昨年度以上	1.9	1.7	1.7	1.5	1.7	1.8	B	C	①GIGAスクール構想にともなうネットリテラシーの継続指導と、生徒会とタイアップした自治的活動によるSNSルール遵守活動の促進。②学校保健委員会での関係機関からの助言を取り入れつつ、体力の低い項目の底上げを意識した授業実践③柔軟性の向上という観点ではなく、危険予測力と回避力向上を目指した学校生活の促進。	中学校統合に向けて、生徒同士の交流活動をしていると聞く。人間関係がどんどん広がっていく中で、表では仲良く見えても、SNS内ではトラブルが起きたりする。端末は家庭が与えているもので学校が情報を集めたり、事後指導するには限度がある。学校できることは予防的なことが一番大事であるが、教員側の指数が低いのは残念である。SNS講演会でも保護者の参加を促す工夫も必要であるし、大人が押し付けたルールではなく、子どもたちが決めたルールであれば守る確率が高いと聞く。新しい生徒会での取り組みを支える活動に期待したい。
	柔軟性向上とケガ防止の実行	学校保健委員会のケガ防止プランの実行	日本学校スポーツ振興センターにかかるケガの総件数（4月～1月）※件数のみ	16						-	-		
	防災安全への取組	多様な想定での訓練等の実施	生徒の災害事故への心構えの指数昨年度以上	2.4	2.2	2.3	2.3	2.4	2.3	A	B		
信頼に応える学校	学校の情報公開	便りやHP(*3)で積極的情報発信	情報公開を評価する保護者の指数2.5以上	2.5	2.3	2.4	2.5	2.4	2.3	A	B	①生徒個々が、学校の中に居場所があるという実感を持ちつつ毎日生活ができる。そのための環境・集団づくりの促進。②本年度に引き続き、全学年で毎学期に「心の健康教育」を取り入れる。SCとの連携を緊密に取りつつ、感情のコントロールができる生徒の育成。③スクールサポートルームや適応教室の活用から、個（成長段階）に応じた継続的な登校支援を提案と実践。	キャリア教育の一環としてゲストティーチャーにて協力してもらう2月の「ふるさとキャリア教育」が良かったと聞く。それ以外でふるさとに関して集中して取り組むのはトライやるウィークの時期だと思うが、学校評価を行う時期とずれているのも要因ではないか。よって、年間通じてのカリキュラムも考えてみてほしい。そして、今の中学生の事だけではなく、今後卒業して地元を離れた際に、地元とつながり何かがあれば、ふるさとへの思いが少しは維持できるのではないか。中学校のHP以外にも地元から情報発信することで町を出て行っても「ふるさと」多可町の魂を持ち、いつでも帰って来れる風土が広がるのではないか。
	教育活動への満足度	保護者の声に真摯に耳を傾け迅速対応	保護者の教育活動満足度の指数昨年度以上	2.5	2.4	2.4		2.6	2.2	A	B		
	特別支援教育の推進	専門性を活かした適切な教育支援	特支C・SC等を活用した支援を評価する教員の指数昨年度以上	2.4	2.2	2.4	2.4			A	A		
	ふるさと教育推進	関係機関等と連携したふるさとの教育資源の積極活用	ふるさと教育資源活用を評価する教員の指数昨年度以上	2.2	1.6	1.9	1.9			A	B		
	不登校いじめ防止の取組	関係機関との連携による不登校対策といじめ防止基本方針の実行	不登校いじめ防止の取組を評価する教員の指数昨年度以上	2.6	2.5	2.6	2.6			A	A		
学校目標	人権尊重力	生活ノートや生活相談シートでのいじめの早期発見と対応	人権を尊重する生徒の指数昨年度以上	2.4	2.4	2.3	2.3	2.5	2.1	B	B	いじめ問題に限らず、生徒の小さな変化（違和感）に目を行き届かせる。	これからは統合に関する事柄が増えていくだろう。新しい中学校の校歌を練習するなどのことも出るかもしれないが、加美中学校の校歌も大切にしたい。今年はサポートルームを活用してみてどうであったか振り返りをしてほしい。教職員の移動などが少なからずあったが、生徒たちは頑張っていると聞いている。生徒たちの心の小さな変化にも気を配っていたきたい。昨年と同じになるが、3校が集まることを視野に入れて、先生方には生徒の細かい見取りを、生徒には今後大勢の中で力を出すために、「ゆめ挑戦力」や「自立力」をつけさせてほしい。
	ふるさと力	関係機関との連携によるふるさと教育の場の設定	ふるさとを尊重する生徒の指数昨年度以上	2.3	2.1	2.1		2.1		A	B	地域の方を招いての授業や活動を通して、ふるさとを理解する心を育てる。	
	ゆめ挑戦力	キャリアノートの作成活用	ゆめに挑戦する生徒の指数昨年度以上	2.5	2.4	2.4		2.4		A	B	自分の育ちを見つめ直すきっかけとして行事等のふりかえりを積み重ねていく。	
	自立力	教師の支援による生徒会リーダー研修会による活性化	自立につながる行動や考えを持つ生徒の指数昨年度以上	2.3	2.4	2.3		2.3		A	A	相手の思いを受けとめ、受け入れるためのスキルを身につけ自立して行動できる生徒を育てる。	

※1 生活三訓とは「時を守り・場を清め・礼を正す」こと。※2 PDCAとはプラン(計画)ドウ(実行)チェック(評価)アクション(改善)の略 ※3 HPとはネットのホームページの略

※4 SCとはスクールカウンセラーの略称。※5キャリア教育とは望ましい職業観・勤労観等を身につけ、自己の個性を理解し、主体的に進路選択する能力・態度を育てる教育

※ 目標値……………昨年度の評価指標の実績

達成値……………本年度の評価指標の実績

自己評価指数・・3:よくあてはまる(よく思う) 2:あてはまる 1:あまり当てはまらない 0:全く当てはまらない

※評価値……………A 非常によい(全項目2以上かつ目標クリア)

B よい(未達成項目があるもほぼクリアしている)

C 今後改善を検討していく(2項目未達成)